

東海村障がい者総合支援協議会人権擁護・差別解消部会会議録

1 開催日時	令和6年2月22日(木) 午後4時から午後4時54分まで
2 場所	総合福祉センター「絆」ボランティア室2
3 出席者	鈴木部会長, 浅野委員, 有賀委員, 有阪委員, 池永委員, 坂下委員, 澤島委員(順不同)
4 欠席者	川上委員, 近藤委員, 益子委員
5 議題	<p>1 開会 2 部会長あいさつ 3 議事 (1) 令和5年度の専門部会の取組みについて (2) 令和6年度以降の取組みについて意見交換</p> <p>【主な意見等】 (1) 令和5年度の専門部会の取組みについて</p> <p><u>①東海高校1年生対象 総合的な探求の時間「社会貢献講座」について</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・部会を代表した形で, 精神障がいについて話をした。精神障がいに捉われずに「生きづらさ」について話をする意見もあったが, 主に知っていただくこと, 高校の保健の教科書に精神疾患が載ったところも含め, 基礎的な話をした。学生も寝そうになりながらも頑張っている。聞こうと思っているのが伝わってきた。アンケート結果を見るまではドキドキだったが, 誰でもなりうる病気ということがしっかり伝わったと思う。高校を卒業した後も発症する可能性があり, 知っているのと違うということが伝わったかなと, これが一番大きな収穫だった。自身も高校生に伝えるのが初めての経験だ。どういう言葉が伝わりやすいのかと思ったが, 村の図書館に漫画で描かれた書籍がたくさん置いてある。文章よりは漫画を見ながら, きっかけになれば良いと思い紹介した。自身も勉強になったし, できれば, こういった活動が続けられれば良いと思っている。 ・自分は, SOSの出し方について話をさせていただいた。生徒の感想に「町の中で困っている人を助けたいと思った。」という意見があるほか, 質問をいただいたりと, 一生懸命に聞いてくれて良かった, 嬉しかったというのが第一印象だ。高校生になると自分をしっかり持っているの, 興味がない人は寝てしまう。今回の講習会はそのようなことはなく, 積極的に聞いてくれ, 頷いてくれて, ありがたかった。分かりやすかったという意見が多かったの, やってみて良かった。今回, 対象者が福祉コースを選択した生徒ということで, 興味のある生徒が多かったのも対象として良かった。 ・「障がいて何だろう」というテーマ。プリントで分かりやすかったという感想があるが, どのようなプリントか? ・講習会の資料を用意した。この感想は私の方だと思う。 ・見ただけで障がいがあるなど, プリントの中に隠れていたのかな。高校生はそういうところに気づいたのか, 良かったと思った。 ・一生懸命な生徒で, 何でも学ぼうという感じだった。精神

障がいというとイメージが難しいが、講師の話がすごく分かりやすかった。

- 地域には差別などが残っている。障がいに対するそのようなイメージがあり、それを言葉にしてしまう。これが無くなると良いと思う。表に出て、分かってもらおう。分からないのが本当に一番もったいない。見て、すぐ分かる子と分からない子の差が、分からないといけない。皆さんで知っていくと、多くの学びがある。若い人にたくさんやってもらいたい。良かった。
- アンケートは、いいことしか書いてくださらない。ホッとしている。
- 本当に、こういう活動が良かったと思う。高校生は障がいがあると分かっているけど、具体的に知る機会がないと思うので。他の学校にもつながっていくと良いと思う。
- 自分だったら、高校生を対象にどう話すだろう。自分は病院で働いているので、一般的な方には分かるように伝えられるだろう。自分たちの時代は、精神疾患についてはまだまだだった。反応が気になっていたが、アンケートに書いてあることも、非常に一生懸命で、良かったのだろう。広がっていくとより良いのだろうと思った。

②村管理職員対象「障がい者理解と合理的配慮に関する研修会」について

- まさに昨日、管理職研修会として話をした。管理職なので、もちろん熱心に聞いていた。副村長にも来ていただき、資料の写真のとおり、挨拶をいただきながら、皆さんに話を聞いてもらった。福祉部局以外の方は興味がないかなと思ったが、ものすごく真剣に、一生懸命に聞いてメモを取ってくれた。講演終了後も、個人的にということでも質問をいただき、障がい者理解というところで、今後につながれば良いと思う。
- 事務局：管理職が講師（委員）の話に引き込まれて、自分ごととして聞いていた。これまでの部会で、職員の対応が度々話に上がっていた。特に選挙だ。これについても講師（委員）から紹介いただき、職員が気付いていない部分に改めて気付いていただけたと思う。管理職だけでなく、職員全体に理解を広げる必要性は改めて感じたので、引き続き取り組んでいければ。部会から話があったことが開催のきっかけだが、村の人事研修という取扱いなので、続けていくことなのかなと考えている。
- 研修実施が昨日の午後なので、まさにアンケートを取っているところ。最後に、私に声をかけてくださった方がいた。村で困っていることの相談があった。個人的な話になるので具体的なコメントは差し控えるが、知って良かった、聞いて良かった。副村長は、分かりやすくて、すごく勉強になったと声をかけてくれた。
- ずっとやりたくて来ていたので、良かったと思う。写真を見ると、3年前に来た場所と同じだ。全体的に良かった。時間もごめんなさいね。忙しいところ集まっていたいで。

③合理的配慮推進事業について

- ・合理的配慮の事業は、どのような状況か？
- ・スロープとお手洗いを一緒に整備する方向でいて、村に相談しようというところまで来た。
- ・是非とも、補助第1号になっていただきたい。

④その他（ヘルプマークの普及について）

- ・障がい者の親でも親のプロではないので、話を聞くなどして自分にプラスになっていく、部会に参加することが自分にとって非常にプラスになって良かった。
- ・ヘルプマークも親の会として取り組んでいる。部会の委員もいるので、みんなから手助けをもらってやっていけると良いと思う。おひとりで動かないで、みんなで取り組んでください。
- ・ポスターは配付したのか？
- ・作成したポスターは、村内の学校に配付した。校長が「校長室へどうぞ」という学校もあれば、教員が「はいはい」という態度の学校もあり、温度差を感じた。子どもが自分のお店に来て、「これ知っている！」という反応を見ると、成果が出ているのかなと思う。
- ・ヘルプマークを見ただけでは支援につながらない。声掛けをするきっかけは、どういう風にしたら良いだろう。マークを見て、知ってもらおう。初めはそうだが、次の段階ではどうすれば良いのか？歩いている人でマークを付けている方を見かけるが、困っていなければ声掛けの必要はないだろう。それをどんな風知ってもらおうのか。
- ・ヘルプマークの人＝大変な人のイメージだが、そうではない。
- ・マークを見た人が、困っている人に手助けをしてもらえりような、地域の小さな集まり等に出向いて行き、10分でも5分でも時間をもらって話をするなどか。

⑤令和5年度の総括

- ・第4期は、コロナがあつたりと活動が制限され、部会が動けなかったが、部会がなくても大丈夫だよ。そういう雰囲気できてしまうと嫌だと思っていた。最後の1年でラストスパートをかけたというか、3つ掲げたことが実現して、頑張っていただけで良かったと思う。ホッとした。今期の計画は終わってしまうが、次期も委員になった時は、進めていただきたい。

(2) 令和6年度以降の取組みについて

- ・来年度から始まることで、この部会が残るのか分からないが、ぜひ続けてやっていけるような。自分が委員になったらやっていきたいことの意見をいただきたい。

①支援のあり方、地域との関わり方について

- ・地域にどういう問題があり、対処していかなければならないか。困っているという声は聞くが、どう関わっていくのかなと思う。
→事務局：そもそも、地域に障害者がいることすら気付かれていないかもしれない。アンケート結果にも、そうい

うことがある。そこからかもしれない。

- ・障がいなど部門別で関わっているが、地域の中で特化している部分と、見えないところで。なんとなく響いてこないところがあるのかなと思う。
- ・自分は相談支援専門員をやっているが、そこから見えてくるのは、障害のある方が、地域で生きていくという課題だ。そういうことが専門職には集まっているのかな。部会というと、切り口が違ってくると思う。
→事務局：民生委員の立場で、そのような話合いがあったりするのかな？
- ・民生委員の中では、障がいは専門の部分という整理になる。一般的なことの話合いはする。家族に障がいの方がいれば、家族の問題があったりするので、専門の方にお問い合わせする。これから、見えない部分と見える部分の差が無くなっていく感じで、社会が動くようになっていくのだろう。若い人たちが、これだけのアンケートの中に前向きな感じが出ているので、すごく良い。エネルギーだ。うまく引き込んでいければ良いのかな。前向きな話ができそうだと思う。
→事務局：村には、6つの地区自治会があり、その中に福祉部会がある。福祉部会というと、どうしても敬老会や配食、見守りになりがちだ。
- ・青少年部会があり、子どもたちや学校までの世代を対象にしている。ライフステージが切れている。青少年があり、高齢者の福祉部会があり、全体を対象とした全体会がある。そこが縦割りなのか、自分たちは高齢者だから高齢者しか見ない。地域の問題は別だ。それこそみんなと一緒にやるという考えになっていかないと、片方だけがモヤモヤする。村は3.8千人なので、他の大きな市町村と比べたらすごく関わりやすい規模だ。でも見えてこない部分もある。早く打つ手がないかなと思う。もっと良い関わり方だ。

②個別避難計画について

- ・自分は白方に引越をした。家族に避難行動要支援者がいる。地区の民生委員や自治会長が家に来てくれ、災害時にかうしましようなどの話をする。総合相談支援課に個別支援計画を作ってもらっている。白方コミセンにどのルートで避難するかなどをやっている。
- ・自治会の中に、災害部会がある。避難の最初がコミセンだ。
- ・福祉的避難所に必要なものが無ければ、行っても仕方がない。こうしましようという話だ。
- ・これについては、村長にも話しをした。村長は「分かっているなら、福祉避難所にまず行って欲しい。東日本大震災で必要なものは経験済みだ。それは出来上がっている」と言う。先日、地域で話合いがあった。夫婦で車いすの方が、「コミセンに行ってから避難は大変だ。デイサービスの人とどのように避難するか考えた方が早いのではないか。」と話していた。村長はそうになっていると言うが、地域に行くと、コミセンに行きましようとなっている。
- ・そこは村が移送するのか？
→事務局：まずは自分で方法を考えていただく。できないところは村が移動について考える。

- ・絆が第一の福祉避難所だ。人数は把握できるので、対応は考えられるのに、何故コミセンに行くのか。障がい者の事業所でも、何人かは受け入れられるだろう。
- 事務局：災害の種類や日時により、避難行動が違う。事業所は、状況に応じた対応になる。即答できないが、流れや福祉避難所に直接行けるという選択肢もあったと思う。「絶対にコミセンへ行く」ではないと思うが、違っていたら大変なので。そこは別の議論として、また別の機会に話し合いたい。村がという前に、自分たちでどう動くかはある。テーマが避難になってしまっているので、それは別の機会としたい。
- ・出かけて行き、地域の方に子どもを見ていただくと自分では考えて、お手間かなと思いつつもやってもらっているという報告です。
- ・あの人たちを守らないといけないと思うと。動けない人をはじめにやっていただきたい。

③住民の障がい理解について

- ・精神障がいについては、法改正や障害者プランの改定もある。精神の方の地域での生活を、どう広げていくか。何十年と大きなテーマだが、やはり今回も地域での生活をどう広げていくか。少しでも支えていきたい。例えば、アパートを借りたい時も、「精神障がいなので貸しません」と言われてしまう。障害を理由としてはいけないが、実際にはこういうことがある。人権、差別解消という意味では、アパートを貸してくれる人にも、理解を広めたい。アパートで生活されている方もいることが皆さんに伝わると、退院し、一人暮らしに向けて進んでいける。高校生を含めて広げていければと思っている。
- ・信用保証協会等を通してアパートを契約する。事業所の利用者で知的の方が、「障害があります」を出したら、ダメとなった。今度は「生活保護を受給しています」と言ったら通った。要は、賃料をキチンと払えるかどうかで対応の差が出てしまう。収入の保証だ。大家さんといっても難しいところはあると思う。
- ・障がい者プラン改定に当たりアンケートを実施した。その中に「税金を無駄遣いしないでください」という意見があった。自分はさみしいと思った。もしこの部会が立ち上がるのであれば、災害の話も同じで、住民に障がい理解についての研修会、講習会等を開催していく部会になると良いと思う。人権擁護、差別解消は大事なテーマだ。部会を立ち上げて、住民理解を進めて欲しい。
- ・役場職員は研修をやりました。今度は住民です。
- ・今度は民生委員です。そのようにして、住民理解が広まっていけば良い。テーマとしてヘルプマークを取り上げてもらいたいし、そういったところを少しアピールできると、部会としての成果が残ると思う。
- ・ポスター配付の相談の時に、「小学校で、知的障がいについて、子どもたちや先生と一緒に話をし、質問をたくさん受ける会。有賀委員にも一緒に行っていただいて、最初は小さい子から、次に先生方から質問を受ける。小学生は、自分が聞いたことは頭に入っていくので、そういうやり方

はどうか」と、教育長から提案があった。ぜひまたやっていきたいと思う。やっと繋がってきたという実感がある。すごく良いと思う。

- ・地域で暮らすということ。知ってもらおうというのは、そういうことだ。

④令和6年度に向けた総括

- ・東海高校の講座は大成功だった。成果が上がったことも大事だし、知ってもらったことも大事だ。本当にお疲れさまでした。障がい者が地域で暮らしていけるように、来年度も部会が立ち上がればと思う。
- ・自分は年齢が高いので、次期委員は辞退させていただく。これは年齢だから仕方ない。
→事務局：この部会は、最も活発に活動している部会だ。皆さまありがとうございました。

【その他】

- ・息子がデイサービスに通っていた頃の先生の冊子を紹介したい。親との関わりに関する書籍で、インパクトがあった。その先生が退職するに当たり、この冊子を作った。皆さんにも読んでいただけたらと思う。

【事務連絡】

- 事務局：障がい者プランと自殺対策計画の策定は、御意見等ありがとうございます。年度末は、完成形に向けてまとめていく。引き続きよろしく申し上げます。
- 事務局：次第裏面に委員名と所属を載せているので、誤り等がないか確認していただき、修正等ありましたら、事務局まで申し出ていただきたい。
- 事務局：合わせて、障がい者プランの意見をいただく際に、時期の計画における委員委嘱の継続の意思確認をしている。確認できていない委員さんについては、この後個別に声掛けをさせていただくので、よろしく願いしたい。